

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001260
法人名	社会福祉法人 若杉会
事業所名	グループホーム浜の宮
所在地	福岡県築上郡築上町大字高塚763番地の3 (電話) 0930-56-0577

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成20年7月24日
評価確定日	20年 9月 8日

【情報提供票より】 (平成20年 6 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15人 非常勤 2人 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	1,200 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年 6月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	11 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上田医院・新行橋病院・有本歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は川の河口付近の海にほど近い場所に建てられおり、潮干狩りや海水浴ができる風光明媚な所である。周りには民家があり、中央公民館に隣接している。平屋建ての中央に玄関があり、2ユニットとも造りはほぼ同じで木造の温もりが伝わってくる和風のモダンな建物である。断熱と遮音にすぐれたガラスや24時間換気システムを取り入れ個室と廊下の温度差の少ない快適な空間が作られている。職員は利用者の日常生活がリハビリになるよう、寝たきりにならないように話し合いながら生活を支援している。学習会やミーティングが充実し職員の育成を図り、利用者本位の介護を目指している姿勢が伝わってくる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価改善事項一覧表を作成し、職員及び運営推進委員の意見を取り入れ、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、十分に検討して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催している。外部評価の結果についても話し合い、また事業所の現状や今後の取り組みについて報告している。委員から意見を貰い、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	運営推進会議の委員に利用者や家族に参加して貰い、意見を表出しやすいよう工夫をしている。年2回の家族会でも、活発な意見が出ている。苦情箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、清掃活動や公民館で開催する文化祭に作品を出品し参加している。また地元の保育園の遊戯会や小学校の運動会の見学、中学校の職場体験を受け入れている。ボランティアが踊りや琴・三味線の演奏を披露してしてくれるなど地域との交流が盛んである。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの視点を含んだ事業所独自の運営理念がある。また具体的な目標として「つねに笑顔で・家族とともに・地域の中へ」の3項目を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体ミーティングや毎朝のミーティングなどで管理者は職員に意義を話し、日々のケアの中に取り入れている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動や公民館で開催する文化祭に作品を出品し参加している。また地元の保育園の遊戯会や小学校の運動会の見学、中学校の職場体験を受け入れている。ボランティアが踊りや琴・三味線の演奏を披露してくれるなど地域との交流が盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義や目的を全体ミーティングの中で伝え、全職員で十分検討して取り組んでいる。また外部評価改善事項一覧表を作成し、職員及び運営推進委員の意見を聞いて改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。外部評価の結果やヒヤリハット記録、現在の取り組み状況や今後の活動計画などを報告し、委員から意見や要望・質問などを受けている。委員の意見で、小学校とのパイプ役の人を見つけてもらい、小学校の運動会に参加することができた。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域を対象とした事業所便りを3ヶ月ごとに発行し、行政に持参して事業所の実情を報告している。また相談をする機会も持っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については利用時や家族会等で説明している。職員が外部研修で受講した資料をもとに、ミーティングで全職員に周知徹底を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りは1ヶ月ごとに発行している。利用者の様子を掲載したり暮らしぶりを記入して家族に郵送している。個人の連絡項目も設け、個々人の詳しい様子を知らせるようにしている。緊急時には家族に電話で状況報告や連絡を行っている。職員の異動は玄関の掲示板で知らせている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口については利用時に家族に説明している。また苦情箱も玄関に設置している。運営推進会議の委員に利用者や家族に参加して貰い、意見を表出しやすいよう工夫をしている。年2回の家族会でも、活発な意見が出ている。家族からの要望でミニ運動会が計画されている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動を最小限に抑えるように努力している。退職の意向が出たときは管理者が話を聞きその上で園長が相談に応じている。やむを得ず代わる場合は、新任職員に対しマンツーマンで指導し、出来るだけ利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用時には年齢・性別の基準を設けていない。配置や昇進・定年や退職などに置いては差別なく安心して働ける職場環境である。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識している。外部研修に参加した職員の資料及び報告書を基に全体ミーティングの時に伝達研修をしている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員育成の重要性を認識しており、年度初めに年間の研修計画を立てて内部研修や外部研修に取り組んでいる。また朝礼や全体ミーティングで伝達している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町の在宅ケア研究連絡会に加入して月1回研修会を行い、サービスの向上に努めている。また同法人運営のグループホームと出向研修を行っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始に到るまでは必要に応じて事前見学を受け入れたり、職員が自宅訪問を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護をするだけでなく介護をする中で利用者から教えられることも多い。たとえば洗濯物の干し方・野菜の切り方・ラッキョの漬け方・野菜の植え方等を教えてもらっている。また夜勤の時“ありがとう”と言ってもらうなど支え合う関係が出来ている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に日々の生活の中で声かけをし、希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合はミーティングで話し合い本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見、職員の気付きを反映した一人ひとりのニーズに合った個別具体的な介護計画を作成している。家族には来訪時や電話、家庭訪問等で要望を聴いている。介護計画作成後に家族に確認の署名と押印を貰っている。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態の変化には即対応して計画の見直しをしている。朝のミーティングや全体ミーティングなどで気付きや意見を出し合って現状に即した対応をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時は家族と一緒に付き添い、家族と共に治療方針の説明を受けるようにしている。また必要な情報提供をしている。退院時には今後の治療方針を確認し、通院治療をしながら事業所で生活できるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が主治医になることを原則とし、支援している。24時間連携も取れており、訪問診療も行っている。定期受診の通院は家族が付き添っているが、状況に合わせて柔軟に支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、看取りをすることを方針としている。利用時や状態の変化が生じたとき、また折に触れて家族と話し合い具体的な方針を決めている。医療行為が必要な場合には、主治医と家族と利用者の意思を尊重し方針を打ち出している。全職員が周知している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを損ねるような呼び方や言動は、管理者を始め全職員がチェックしている。不適切な言動にはその場で注意したり、ミーティングで話し合うようにしている。また、個人情報を他の家族の前等で話さないようにし、個人記録の取り扱いにも注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大まかにあるが、一人ひとりの状態や希望に沿って支援している。食事や入浴・睡眠時間は、個々のペースにあわせて行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳を職員と一緒にし、職員は利用者と同じテーブルで同じものを食べている。利用者が座る位置については利用者相互の人間関係に気を配り、楽しく食事が出るよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望にあわせ、柔軟に支援している。ゆったりとくつろいだ入浴ができるよう、少人数での利用等を配慮している。入浴拒否する人には一緒に入ったり、仲の良い人同士で入ってもらうなどいろいろな工夫をしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生け花を活けたり、大正琴を演奏したり、歌の披露をしてもらうなど活躍の場を設定することで気晴らしや楽しみごとが増えるように支援をしている。また職員がラッキョの漬け方などを指導してもらったりするなど互いに良い関係が築かれている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常の散歩や週2回の買い物を行っている。月に1回は花見や季節の行楽行事を企画し、出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中の施錠はない。玄関にはセンサーとチャイムが設置してある。外出傾向を把握し、外に出たい時はできるだけ一緒に散歩に出るなど自然な対応を心がけている。近所の方や警察とも連携を図り、見守りの体制を作っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の消防避難訓練を実施し、1回は消防署と一緒に訓練を行っている。地域住民の参加もある。災害緊急時のマニュアルがあり、職員は緊急時の連携や連絡体制を周知している。非常食や飲料水の確保が出来ている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に全利用者の食事の摂取量や水分摂取量の記録がある。献立は栄養士が毎月確認し、栄養のバランスをチェックしている。利用者の嗜好は手作りのおやつに反映させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れ、24時間空気循環を含めた温度調整をしている。また廊下も広く機能的である。居間には木目調の素敵なサイドボードを置くなど、温かみのある工夫がされている。またガラスは防音と熱の遮断効果のあるものを使うなど利用者が快適に暮らせる配慮がなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個室には家族の写真や好みの筆筒、以前使っていた鏡台等が持ち込まれ、利用者がくつろげる居室になっている。各居室にトイレが付いており、プライバシーが十分尊重される配慮がなされている。		

※ は、重点項目。